

旧本郷一小跡地（仮称）ほんごうパーク管理運営検討会（第6回）

日時：2025年11月18日（火）18：30～20：30

場所：コバコ

参加者（敬称略）：

HPF：安齋、小野、齋藤、佐藤（信）、竹内、西田、根本、松田

建設水道課：佐藤、金田、猪俣

コムテック：脇門、小浦（オンライン）

【意見の詳細】

1. 見守り活動の結果と今後について

1) 利用状況と利用促進策について

- ・ 高齢者や大人はなかなか来ないので、グラウンドゴルフなど大人が行うチーム活動をあそこでやってもらい、子どもと一緒に対抗戦のようなことをしてもよいのではないかと思う。
- ・ 最初は警戒していた子どもたちも、特に近隣の子どもたちは積極的に遊びに来るようになってきたので、継続していけば「公園だ」という認知になっていくのではないかと感じている。
- ・ その場にいるだけで、特に何か相手をしなくても、子どもはちゃんと遊んでくれると感じた。
- ・ こういった取り組みは続けていかないと根付かないので、継続が必要だと思う。
- ・ また、高齢者の方が来ないという点については、私自身も高齢者の立場で考えると、テーブルやベンチなどの休憩場所がないと、高齢者が集まったり散歩をしたりするのは難しいと感じる。
- ・ 桜の苗木を植えるなど、木が育っていくことで、確実にみんなの憩いの場所になっていくと考えている。ただ、業者が桜の苗木を植えるのではなく、自分たちがその木を植えることに関わっていくことが大切だと思う。
- ・ 苗木をみんなでお金を出し合って一本いくらという形で購入できるようにするなど、この公園の中に自分との関わりをたくさん作っていくことが、全世代が関わる場づくりにつながるのではないかと考えている。
- ・ ここは全世代、そして年寄りも若者も、男女問わず来られる場所にすることが大きな狙いである。その意味でも、高齢者がどうしたら来られるか、あるいは気楽に来てもらえる場所にしていくにはどうしたらよいか、を考えていくことが必要であると感じてい

る。

- ・ 学校から早く帰れない時は、広場に行きたくても時間がない。子どもたちは学校生活でかなり忙しい。そのことを頭に入れておく必要がある。
- ・ 時間の余裕があって遊べる状況の時には、遊び場としての認知が高まっていると感じた。
- ・ 子どもたちはちらしをもらっても、実際に説明を受けないと内容が分からない。説明を付けて配るようにした方が良い。子どもたちは、どんな場所か分からないと怖くて入りづらく、敷居が高いところがあったかもしれない。
- ・ 10/14GO 寺イベント使用時も、あいにくの雨でランドセルを置くだけになってしまったが、「大丈夫な場所だよ」と感じてもらうために、まずは知ってもらうことを目的としてほんごう BOX を利用した。

2) 安全管理の課題

- ・ 大人の見守りは必要だ。思わぬ怪我が発生するかもしれない。ブーメランが顔に当たる可能性もある。遊びの質を見ながら、安全管理をどうするか考えなくてはならないと感じた。
- ・ バasketボールをするとき、芝生の上ではドリブルができないため、子どもたちが無意識に道路に飛び出してアスファルトの上でドリブルをしようとした。ドリブルをしたい一心で飛び出してしまったのだと思うが、とても危ない状況だと感じた。もしBasketボールを置くのであれば、公園の中で安全にドリブルができるようなスペースをつくる必要があると思う。小学生は思いもよらない行動をとることがあり、その点を踏まえてよく考える必要がある。
- ・ (コンサル) 遊具が破損しているものもあるので、遊具の整理が必要。また、その使い方についてもあらかじめ考えておく必要がある。

3) 今後の活動の方向性について

- ・ 続けてきたことで認知度が高まってきたと感じている。
- ・ 遊んであげる大人がいることで、子どもがいきいきする。
- ・ 若い人や保護者への認知を広めることも重要。
- ・ 可能な限りいろいろな意見を取り入れて、すぐ実施してみるスタンスが大切だと思う。様々なことを仕掛けて、認知度を上げていくことが重要。
- ・ 他団体の方が来て、この場所を活用してくれたら良いと思う。今回(11/8)のようなイベントを月一回くらい実施してもらえるとありがたい。
- ・ 私たちも関われる時には関わりたいし、これまでのように見守りの日程を何日か設けて、春になればまた何日か応援したいという気持ちがある。それはボランティアでも構わないと思っている。

- ・（コンサル）中心になる人や少し若くて動ける人がいて、この日にやるからぜひ一緒に手伝ってほしい、関わってほしいと声をかけてもらう。それに関わっていく形のほうが現実的であると理解した。

2. プレーパーク事例と任意団体の検討状況

- ・ プレーパーク等外部のイベント運営者を受け入れるためにも、今後ある程度の体制を整えていく必要がある。実際に来てもらう時に何も用意できない状況は望ましくない。今年度中にある程度の見通しをつける必要がある。
- ・ 任意団体の役員やサポートメンバーによる打ち合わせについても、メンバーが固定化してしまうのはあまり望ましくない。もっといろいろな人が参画し、仮に毎月この取り組みを行うとしても、毎回同じメンバーでなくてもよい。月に一度ここに来るだけでもなかなか大変なので、やりたい人が入れ替わりながら参加していく形もありうるのではないか。
- ・ 例えば事例のプレーパークのどれかを参考モデルにして、この公園の運営について案を出してみたほうがよいのではないか。その案に基づいて意見を出し合っていくことも大切ではないか。
- ・ いろいろな意見を出して修正を重ねながら一つの形をつくり、実際にやりながら変えていく、改善していくという進め方がよいのではないか。
- ・ これまでの話し合いの中でさまざまな意見が出てきたので、今度はこれまでのイベントなども含めて、具体的な形をきちんとつくっていく必要があると感じている。具体的な案があったほうが、みんなも意見を出しやすいのではないかと思う。
- ・（コンサル）今年はまずは任意団体として取り組もうという方針で進めているため、参考事例よりも少し簡易的な体制になる。具体的な形については、皆さんと相談しながら決めていくことになるので、改めて議論できればと考えている。

以上